

議案

都市計画練馬城址公園の 整備計画について

(審議)

1. 都市計画練馬城址公園の計画テーマの設定

【計画テーマ】

都民に親しまれてきた土地の歴史・風土を感じながら、
緑豊かな自然に触れ、人々の交流が生まれる公園

【計画コンセプト】

① 豊かな緑と川のせせらぎを感じる中で、人々が憩い、安らぐことのできる空間づくり

- ・既存の樹林地を生かしながら区域内の緑を増加
- ・石神井川沿いの並木道や散策路との連続的な水辺空間を創出
- ・周辺の様々な公園を繋げ緑と水のネットワークを強化

② 人々が迅速に避難でき、地域の防災機能の向上に繋がる拠点づくり

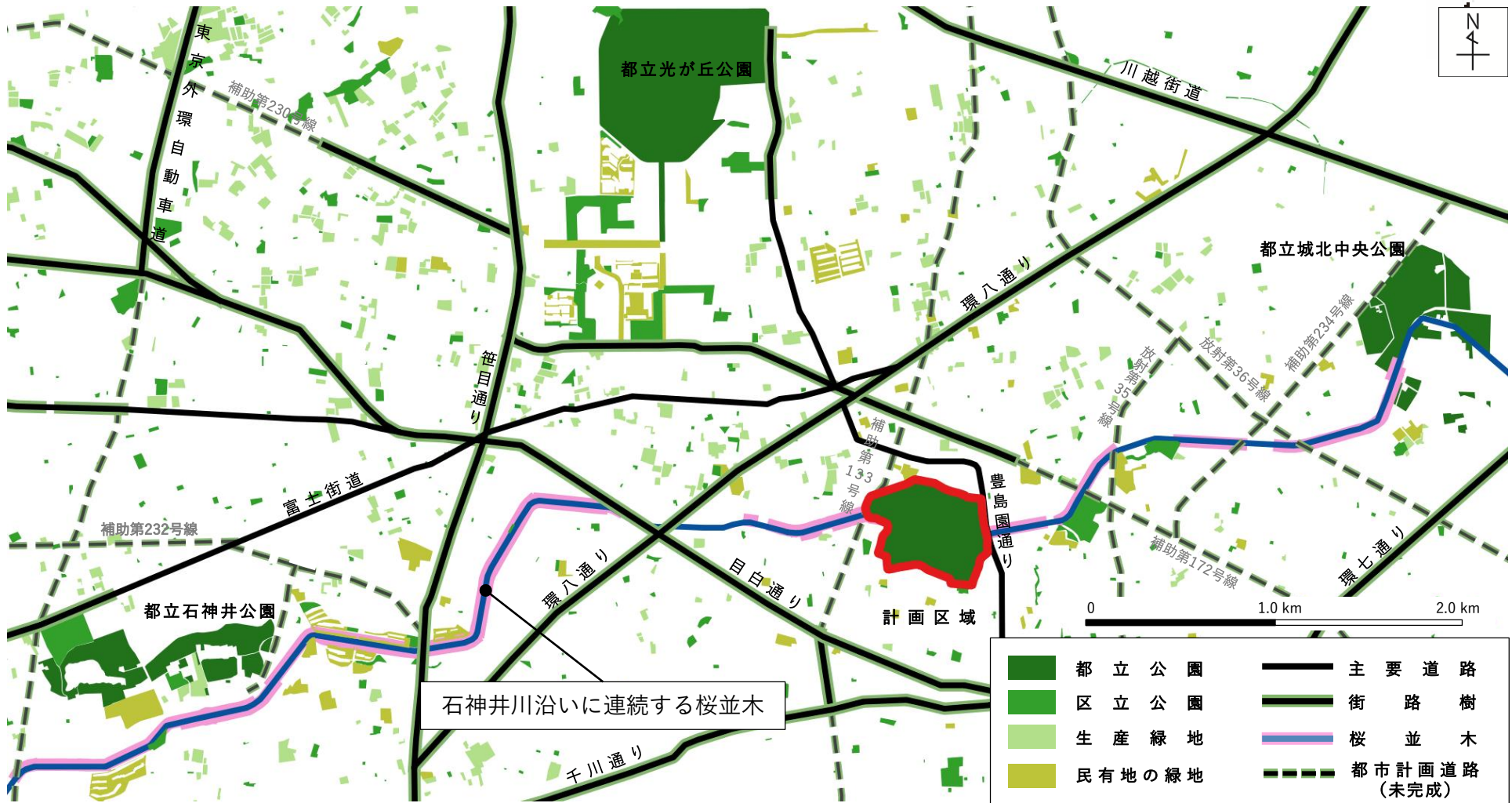
- ・まとまった広場空間を確保し防災機能を早期発現
- ・円滑な災害応急や避難に対応する防災施設の整備
- ・地形等も考慮し、周辺からの避難を円滑に受入れる園路を整備

③ 都民に親しまれてきた土地のにぎわいを醸し出し、人々が集い交流を生む空間づくり

- ・遊園地「練馬城址豊島園」の開設等、土地の歴史的背景を生かす
- ・農業などを生かした地域連携により、活気と賑わいを創出
- ・民間との連携によりカフェやマルシェ等の交流空間を整備

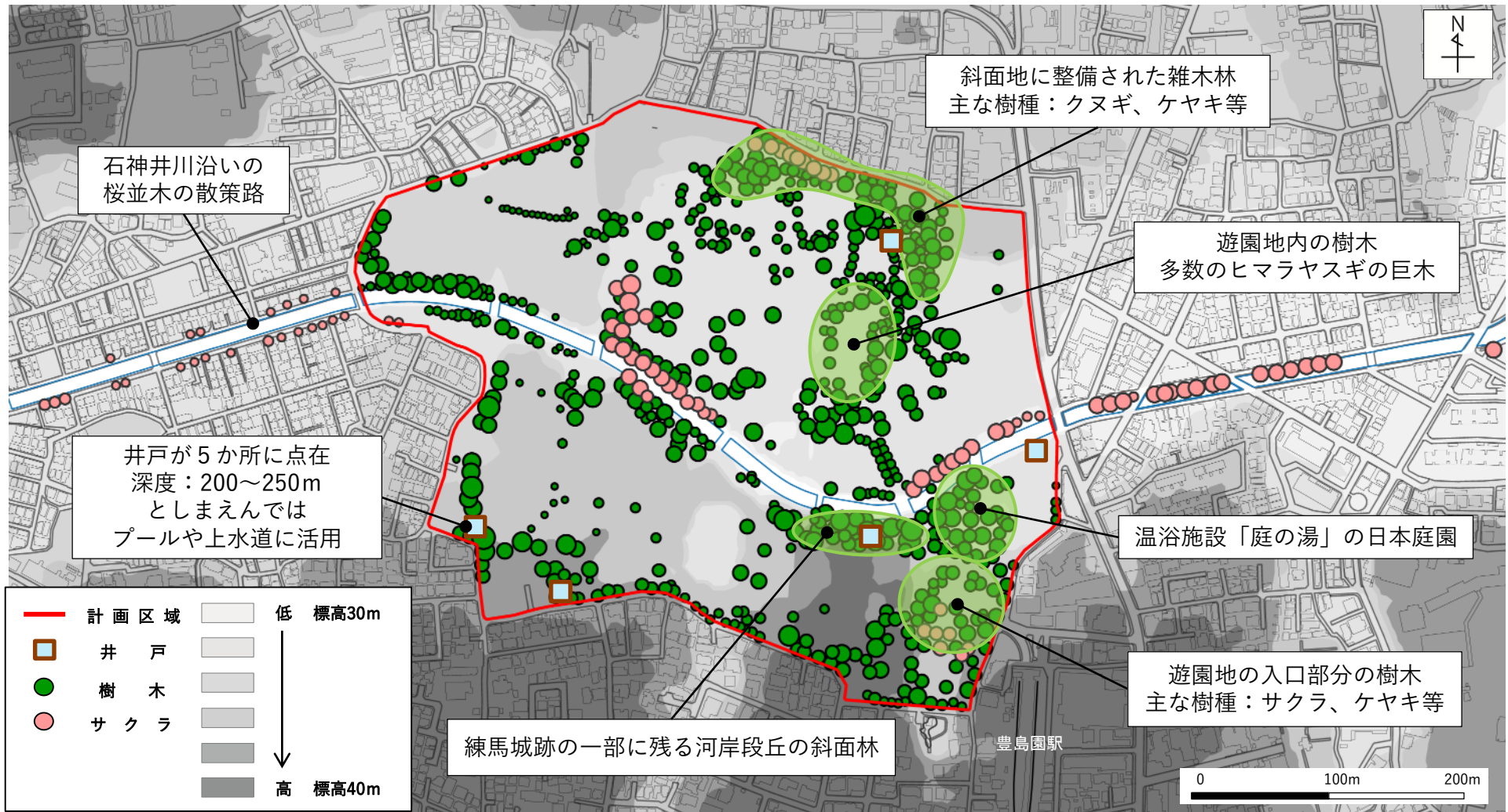
2. 緑と水 - 現況 1

石神井川沿いは、連続した桜並木の遊歩道が整備されている
都立公園の大規模な緑を拠点として、
公園、農地、街路樹等の多数の緑と共に、ネットワークを形成している

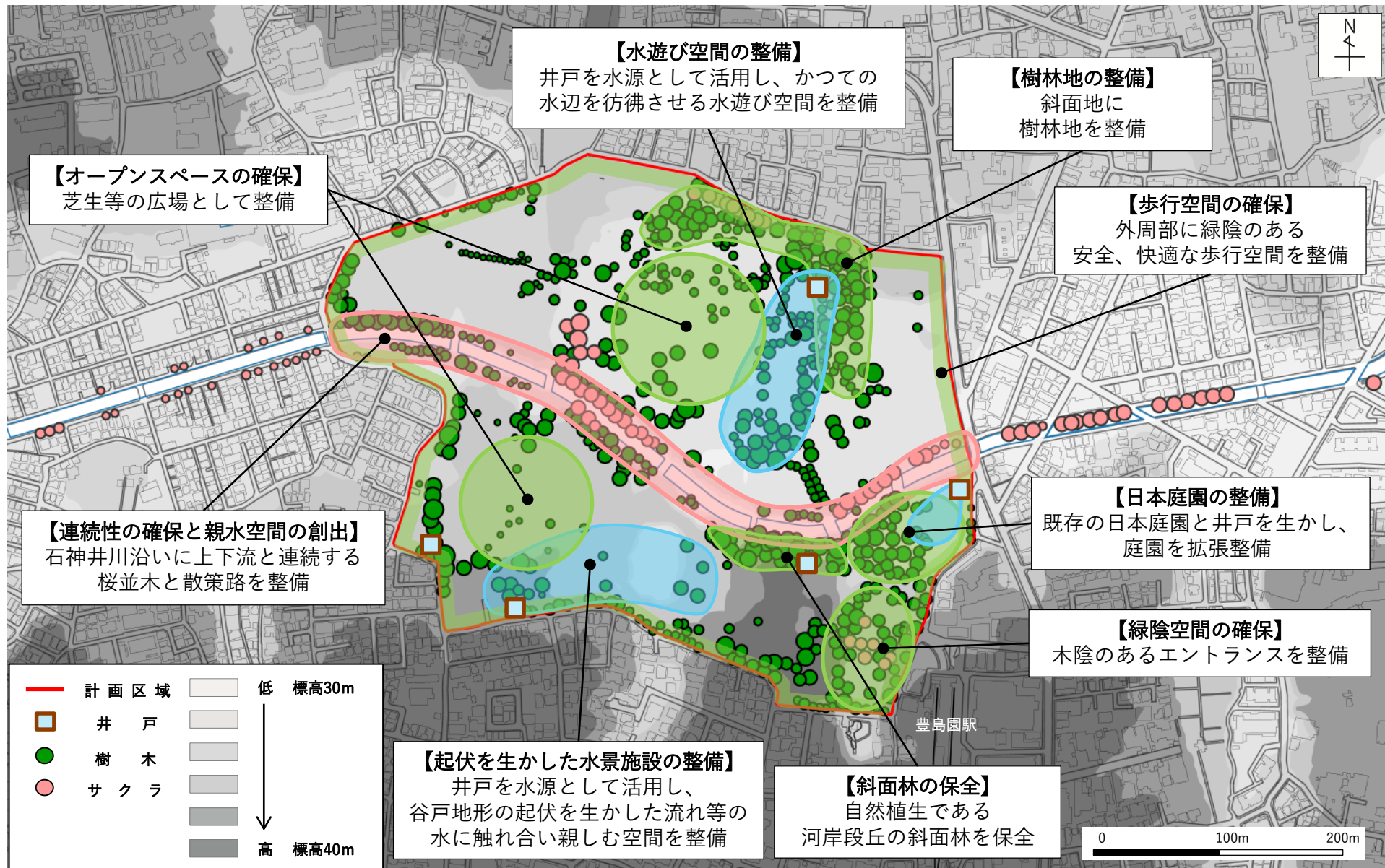


2. 緑と水 - 現況 2

石神井川沿いのサクラの他、ヒマラヤスギや雑木等の樹木が植栽されている

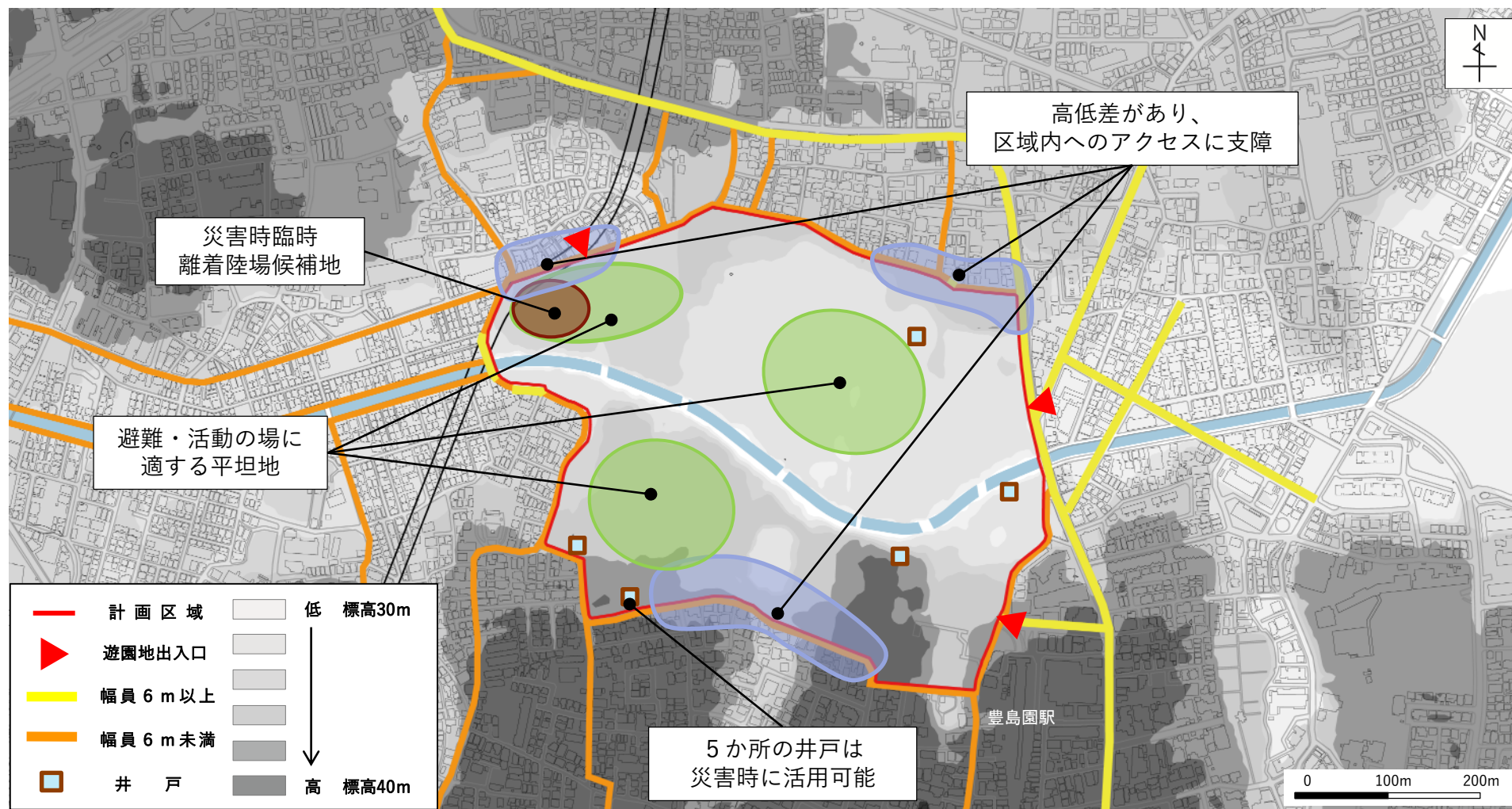


2. 緑と水 - 公園整備への展開

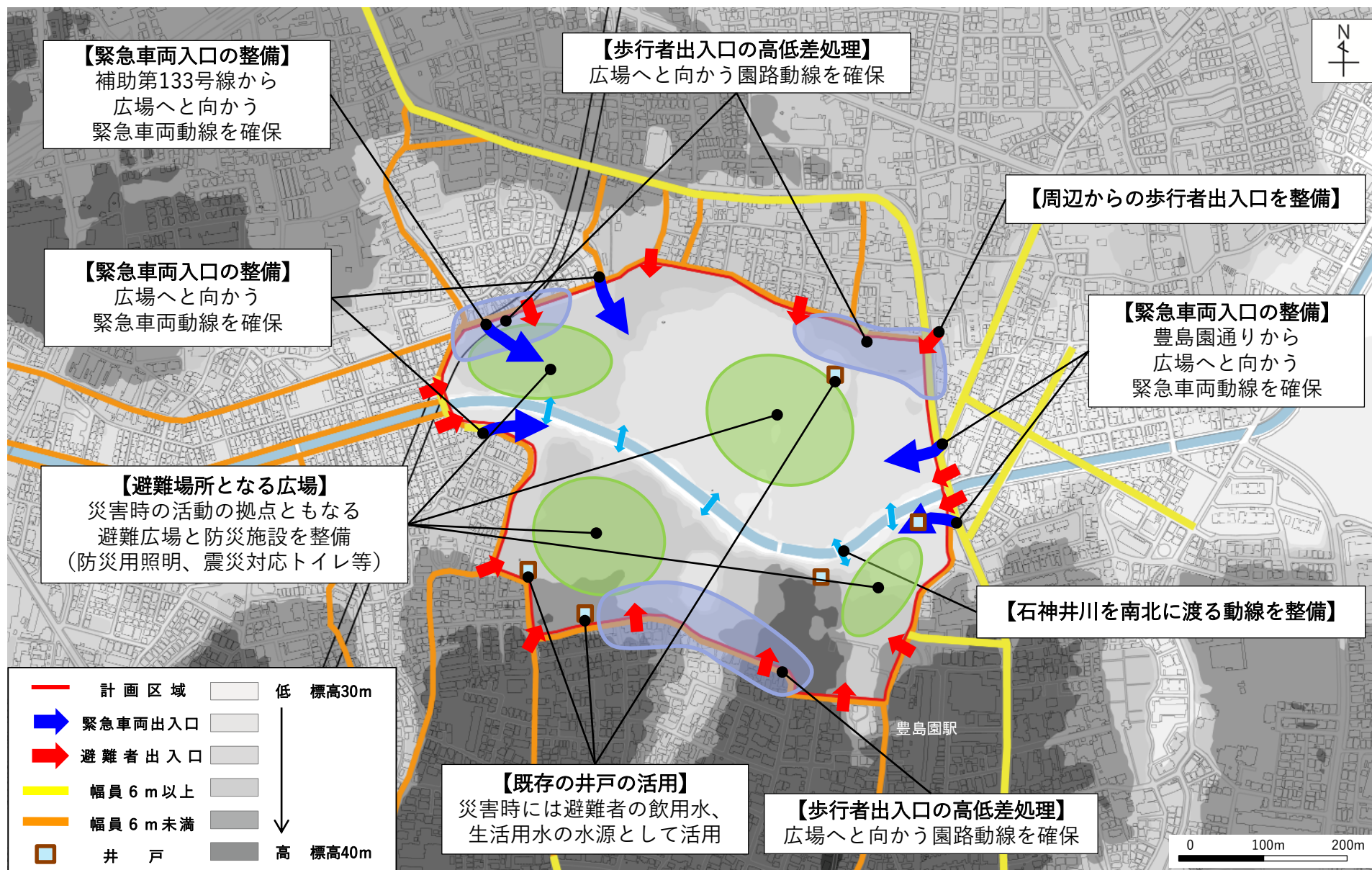


3. 広域防災拠点 - 現況

区域周囲の道路から逃げ込む出入口が少ない
石神井川によって区域が南北に分断されている
一部では、区域内外において高低差が生じている



3. 広域防災拠点 - 公園整備への展開

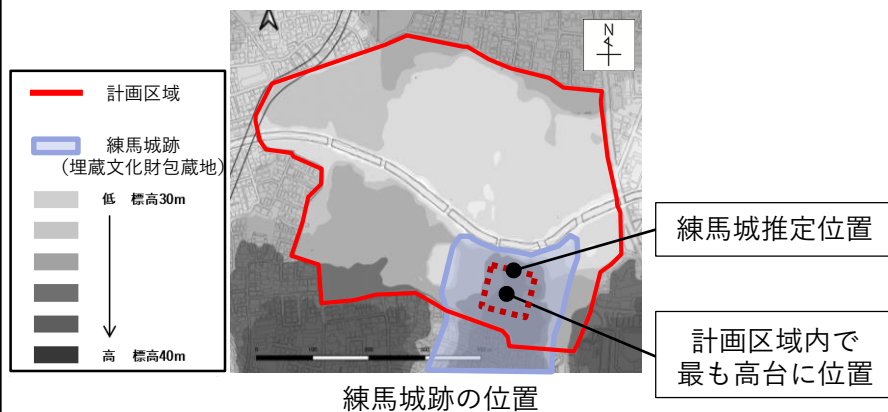


4. にぎわい - 遊園地「練馬城址豊島園」の歴史背景

室町時代には城が築かれ、大正時代から続く遊園地としてにぎわいの場を形成

【都指定旧跡練馬城跡】

- ・城主 豊島氏
- ・平安時代～室町時代に武蔵国で勢力を誇る石神井川沿いに平塚城（北区）、石神井城（練馬区）、練馬城を築城
- ・昭和30年代までは土塁等が残っていたが、現在は空堀等の地下遺構以外現存していない



練馬城跡の位置



豊島氏の主な居城（室町時代）

【練馬城址豊島園の歴史背景】

- ・大正15年に開園
- ・城跡周辺の景勝地を遊園地として整備
- ・東京市民のために体育の奨励と園芸趣味の普及を目的
- ・所有者や形を変えながら令和2年まで運営



昭和13年頃の園内地図

(出典：7枚全て練馬区立石神井公園ふるさと文化館蔵)



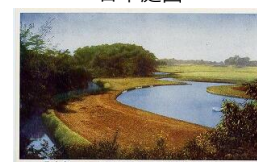
城址の噴水



睡蓮池



日本庭園



園内の清流



花壇



音樂堂

4. にぎわい - 農業等を活かした地域連携

住宅地に囲まれた環境の中で盛んに農業が行われ、地元農産物を使った加工品も数多く販売
地域に親しまれたイベントによって、住民と地元企業によるにぎわいが創出

【地産地消の農業】

- ・ 野菜や果物以外、花卉園芸も盛んな他、東京区部では唯一の牧場が存在
- ・ 都市農業の魅力を発信（農業者の実施する「ねりマルシェ」の支援、練馬産キャベツ「ねり丸キャベツ」のブランド化）
- ・ 区内の和洋菓子店やレストランを中心に練馬産農産物を加工し、販売
- ・ 練馬産農産物やその加工品を使う店舗を「ねりまの食育応援店」として区が登録



体験農園に多い
ブルーベリー畑



江戸の伝統野菜
「練馬大根」



古くから生産が盛んな
阜月盆栽



東京区部唯一の牧場
「小泉牧場」



都内最大の生産量を誇る
「ねり丸キャベツ」



食育応援店の登録証

【地域に根差したイベントや祭り】

- ・ 地元の企業や団体が参加するお祭りが区内各地で開催
- ・ 区内最大級の練馬まつりでは練馬産業見本市ねりまEXPOが開催
- ・ 区民投票による、地元の商品PR

（地元ねりまのオススメ商品コレクション（ねりコレ））



大勢の区民でにぎわう
練馬まつり



地元商品のPR
「ねりコレ」の冊子

4. にぎわい - 民間との連携

公園の段階的整備における民間事業者との連携

- ・ 民間事業者が行政と連携して、都立公園と一体的に機能する土地利用を計画
- ・ 計画区域全体でにぎわいを創出
- ・ 民間事業者の施設運営期間は30年に設定し、運営終了後は都立公園として整備



P-PFI等の民間活力導入

平成29年 5 月 東京都公園審議会答申
「都立公園の多面的な活用の推進方策について」
充実感、満足感が得られる質の高い場を提供するには、
これまで以上に民間のアイディア・ノウハウの活用を通じて、
官民の連携・協働を深めていく必要がある。



積極的に民間活力を導入し、
にぎわいの場を創出する

【民間活力の導入事例】



東京都江東区 都立木場公園
「Park Community KIBACO」(カフェレストラン)



大阪府天王寺区 市立天王寺公園
「てんしば i:na」(カフェ等複合施設)

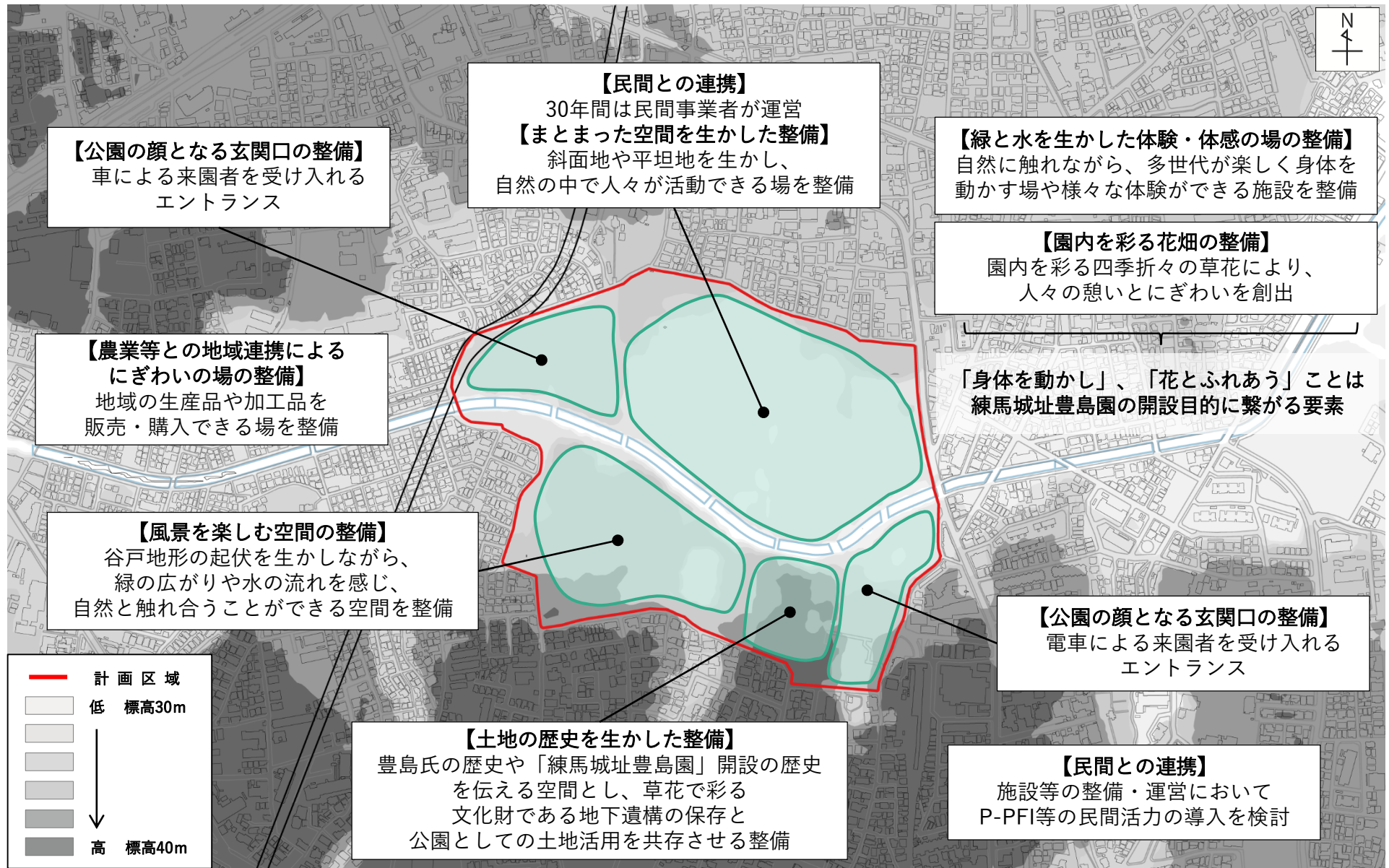


神奈川県横浜市 市立横浜動物の森公園
「フォレストアドベンチャー・よこはま」(アスレチック)

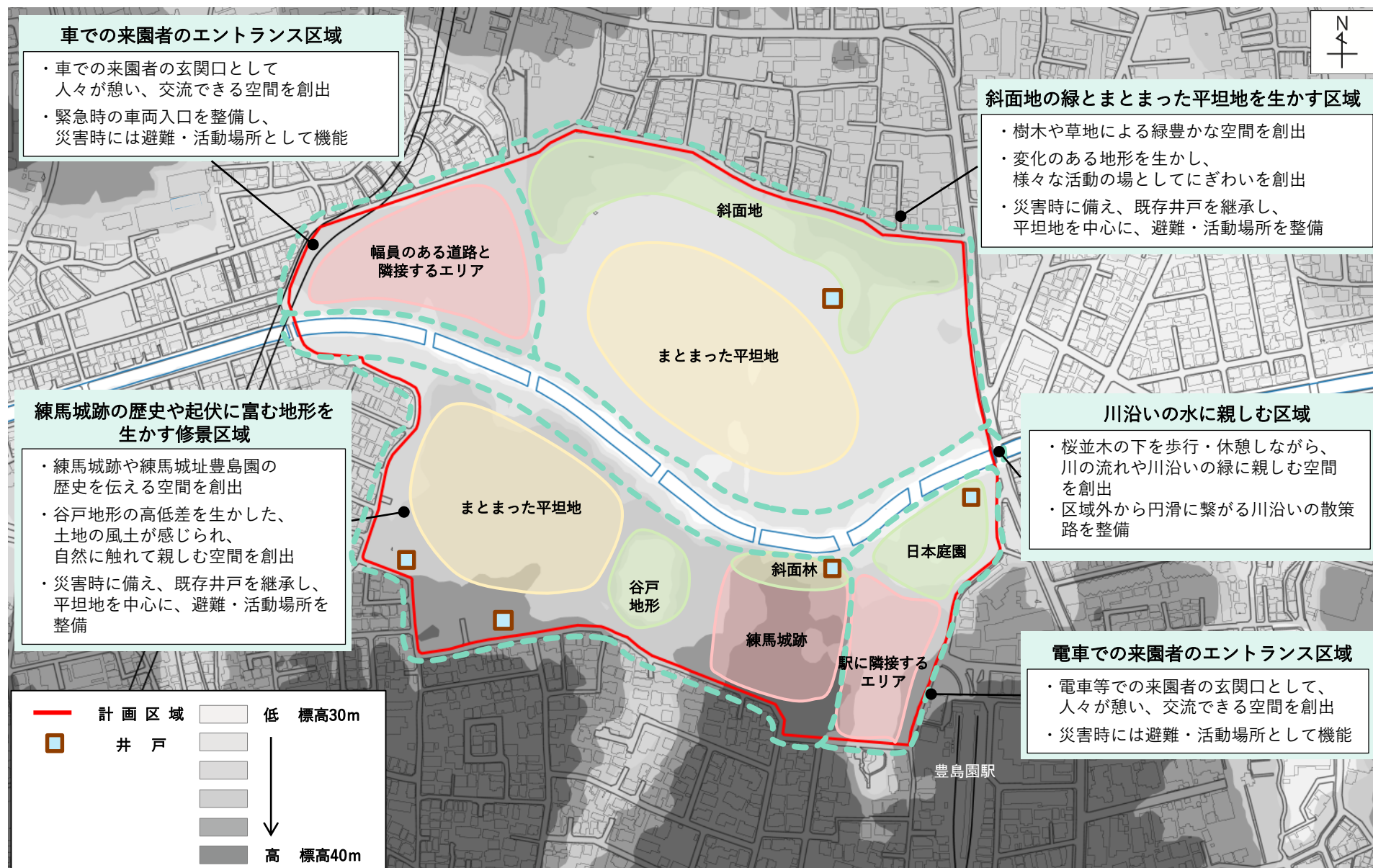


静岡県沼津市 市立愛鷹運動公園
「INN THE PARK」(キャンプ場)
(株式会社インザパークより提供)

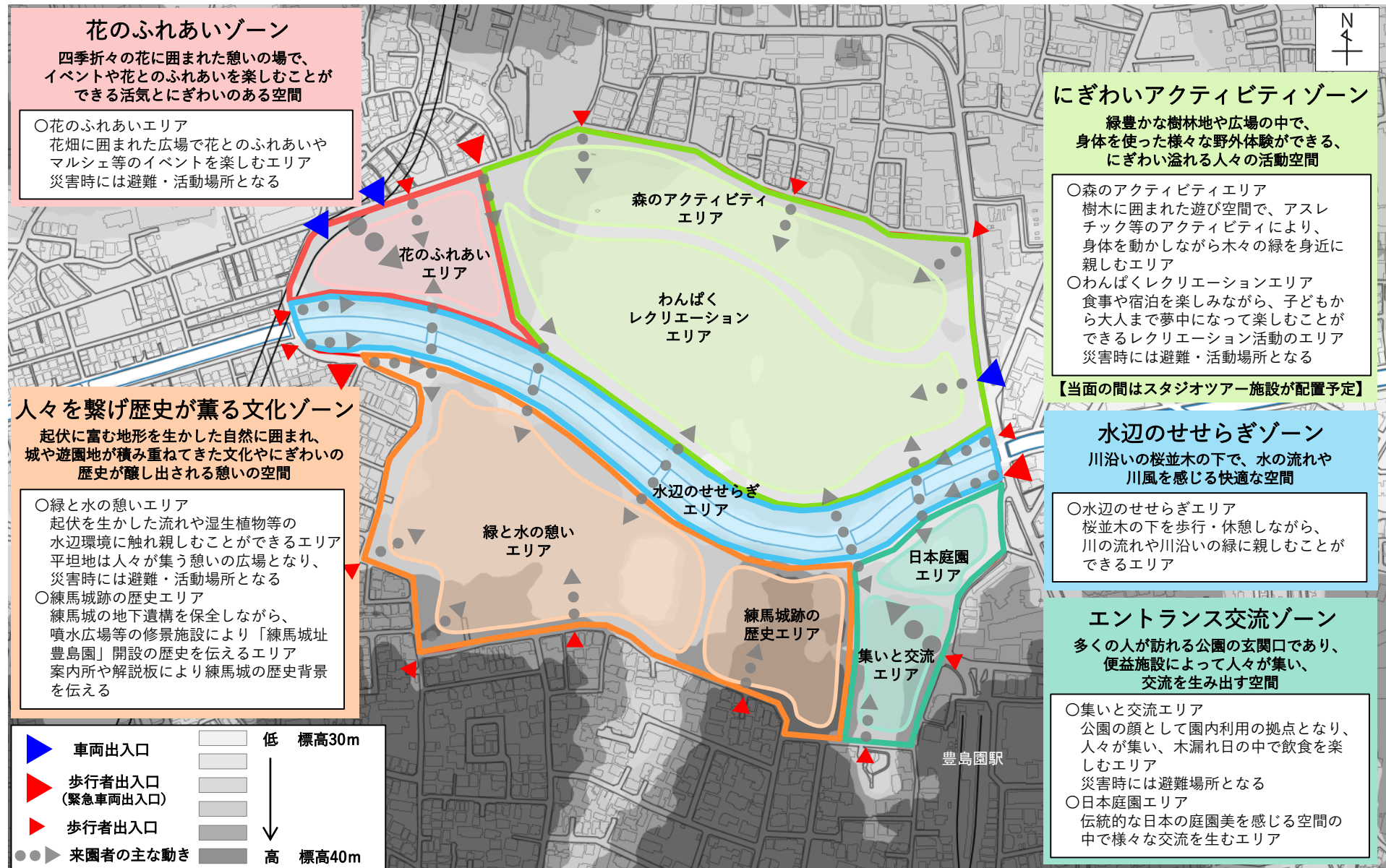
4. にぎわい - 公園整備の展開



5. 空間特性からみた区域区分

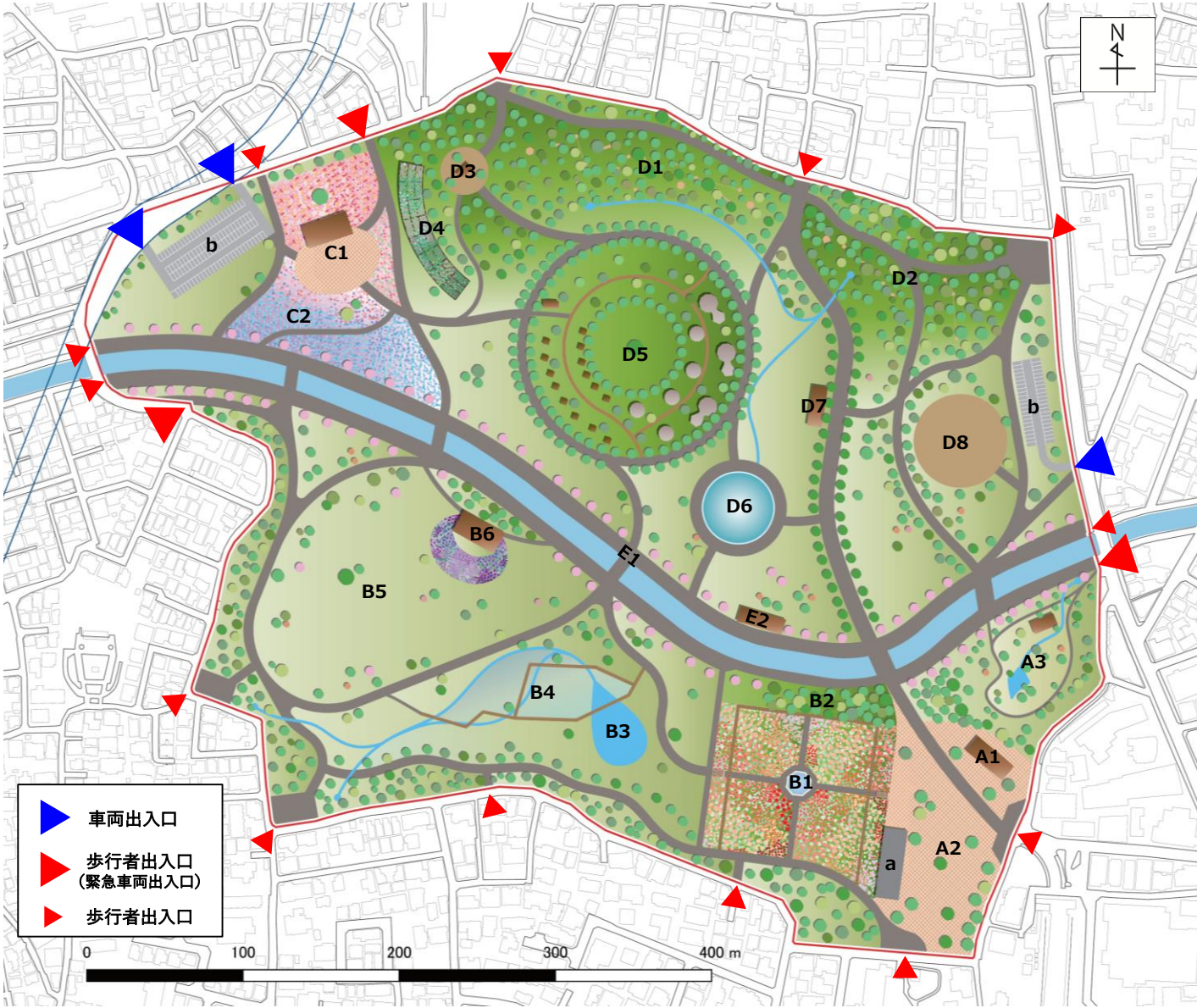


6. ゾーニング案



7. イメージ案（参考図）

※一つのイメージ案として、参考的に表現したものです



エントランス交流ゾーン	
A1	人々が集い交流する飲食施設
A2	木陰のエントランス広場
A3	日本庭園
人々を繋ぎ歴史が薫る文化ゾーン	
B1	城跡を彩る修景施設
B2	斜面林（現況を保全）
B3	起伏を活用した水景施設
B4	水辺の植物に触れ合え、水遊びができる水辺空間
B5	草地広場
B6	開放的な空間を楽しむことができる飲食施設
花のふれあいゾーン	
C1	地元商品を販売・購入できるイベント広場
C2	季節の花々を親しむことができる花畑
にぎわいアクティビティゾーン	
D1	自然の中で木々に触れ合いながら身体を動かすことができる運動施設
D2	植物観察のできる雑木林
D3	休憩施設
D4	果樹の収穫や屋外での飲食を楽しむことができる施設
D5	緑に囲まれたキャンプ広場
D6	水遊びのできる水辺空間
D7	休憩施設
D8	多目的広場
水辺のせせらぎゾーン	
E1	桜並木の散策路
E2	川沿いを眺められる休憩・飲食施設
主要施設	
a	管理・公園案内施設
b	駐車場